

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400710		
法人名	社会福祉法人ひまわり福祉会		
事業所名	グループホームひだまり 寒椿ユニット		
所在地	島根県出雲市神西沖町2452-1		
自己評価作成日	令和元年10月27日	評価結果市町村受理日	令和2年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [?/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32](http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの来訪が定期的にある ・定期的な家族の面会がある ・個のニーズにできるだけ応えている ・食事がおいしい ・医療機関と連携を図り、往診や必要時には受診に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は2ユニットそれぞれの利用者の状態を把握し、「せつかく出来るのだからさせてほしい、願ってもやがて出来なくなるのだから」という利用者の思いや願いを受け止めて出来る事やしたい事を継続した生活が出来る様に日々寄り添い支援している。また、声掛けの工夫や見守りをしてゆったりと関わり、利用者が生きがいや役割を持って暮らせる様に支援している。地域との関わりを大切にして情報や意見交換を行い、ボランティアや学生の実習生の受け入れをしている。内・外部研修、学習会には職員同士勤務調整し合って参加し、日々の実践の発表会を行いケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はできていない。入居者の持っている「力」を活かした支援を常に心がけていた。	礼儀正しく敬意を持って、法人理念や運営指針に基づいて具体的な意見を出し合い利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体、商店との交流がある。お散歩を日課としている入居者は、自ら地域の草取りをしたり、地域の人との交流を保っている。	ボランティアの来訪があり書道や花、野菜の苗植えを一緒にしたり、地域と関わる「ひだまりカフェ」の開催、祭り、行事への参加等を通して交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症の方の気持ちや人権についての議題を多く盛り込み、参加者に理解を求めたり、意見を聴いたりしている。近隣者を招いたカフェでも参加者に理解を求めた。その他はあまりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況等についてはきちんと報告されていると思う。	ひだまりの日常をスライドで説明、報告している。地域の事業所としての取り組み状況を伝え意見を貰いながらサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、認知症の方の気持ちや人権についての議題を多く盛り込み、参加者に理解を求めたり、意見を聴いたりしている。	日頃から情報提供や意見交換、相談を行い協力関係を築き支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 不必要な施錠もなく、行動制限も行っていない。 行動を制限するような、過度な服薬も行っていない。	身体拘束廃止委員会を作り権利擁護に関する学習をして職員が理解、共有しており、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	次月の研修で高齢者虐待が取り上げられている。 虐待しないことを常に心がけている。 グレーゾーンのものもあるかもしれないので、研修を学びの場としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定後見制度を利用している方あり。管理者層はこれらの制度を理解し、必要に応じて活用できるようになっている。権利擁護については、内部の研修や、外部研修の機会などで管理者らからの助言を得る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っているが、現場職員がそれらを実践する機会や、契約の場に立ち会う機会はほとんどない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されているが、あまり投書はない。利用者や家族からの要望は、記録にも残し、会議等での周知を図り、運営にも反映されている。	面会時に日頃の様子を伝えたりひだまり通信「ぼっかぽか」を送付して喜ばれている。家族からの要望も利用者の体調に合わせて取り入れたり、事業所の敬老会には家族が集まって一緒にお祝いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やその他会議などで、機会を設けている。	日頃から意見や要望を言いやすい職場環境づくりをしている。法人には労働組合や年に1回の個人面談もあり意見を出し合い出来ることから対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてもらっていると思うが、評価についてはどういった基準なのかわからない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修機会は設けてもらっており、施設としては努力が感じられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の訪問、他事業所からの見学、或いは研究交流集会などへの参加など、交流の機会はある。それで質を向上させることができているかは疑問。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前～入居当初の相談には、課長、係長が主に対応。その情報をもとにその後の支援をしている。積極的に要望を聞くなど対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前～入居当初の相談には、課長、係長が主に対応。そこに現場が直接かかわる機会は少ないが、その情報をもとにその後の支援をしている。制度的な内容など、現場で返答できない場合は相談できる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これらは、申し込み～入居案内までの段階で、担当者(課長・係長)が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという考えのもと支援している。本人のできる家事はしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居案内までも説明し、入居後のカンファレンスでも取り上げている。受診・外出・墓参りなど、家族と出かけられるよう持ちかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に、安否確認などで訪問してもらっていた方(業者)などは、家族との相談の上、訪問を継続してもらい、定期的に話し相手になってもらっている。近隣でお付き合いのあった方などの訪問もある。	高齢化でだんだん友人、知人も少なくなっているが、利用者に以前世話になった近隣の知人が訪ねて来たり、家族と墓参りや実家に出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	敢えて職員が介入せずとも、入居者同士の関係性ができている。ご飯や、お茶の時間に誘いに行ったり、一緒にこれをしようと話しかけたり、あんたもしなさいと仕事をわけあったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した入居者の家族が、今でも庭木の伐採や機器の取り付けなどで協力してくれている。こちらも現況を聞きながら必要に応じて相談にのっている。他の事業所に移った入居者を行事に誘ったり面会に行ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々が記録におとすことは出来ているが、それら全てに目を通しては思えない。口頭で伝えあつての共有が多い。またそれらをチームの会議で話し合っている。	日々の関わりから利用者が嬉しそうな顔をしたり笑顔が見られた時の様子から思いをくみ取り、申し送りノートや口頭で伝え合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書や家族からの聞き取りにより、把握するよう努めている。また、本人との話の中から得る情報も多い。馴染みの物を居室に置いておられる方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべて把握できているとは思わないが、把握するように努めている。ユニット会でも議題に挙げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き、本人・家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。	介護計画担当者を中心に利用者、家族、関係者の要望を十分に取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に落としているし、口頭での共有もするようにしている。ユニット会議で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人で散歩したいという方の願いを聞き、家族とも話し合いを重ね、実践している。そのほかのニーズにも対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる方がおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院との連絡は、主に係長・リーダーで行なっているが、病院との連携は取れていると思う。	利用者が希望する今迄のかかりつけ医を受診しているため複数の医師の訪問診療がある。緊急時にも必要な情報を提供して適切な医療を受けられる様に医療機関とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、特養やデイの看護師に相談したり、協力を仰いだりはできている。処置の方法を教わったり、所見をきいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理職層でしているが、実践できていると感じる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員がそういった話し合いの場に参加はできないが、管理職層や先輩が実践しているのは知っている。早期に対応も出来ている。	重度化した場合、終末期をどこで過ごすかも含めて家族を中心に関係者と方針を話し合い、事業所で出来る最大限の努力をしている。今年度一人看取りの支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で、入職時には必ず行っている。その他でも研修機会は設けられているが、全職員がそれに参加するのは難しい状況。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での訓練をひだまり・本体施設それぞれに年2回実施している。地域の協力体制については十分に把握はできていないが、訓練には参加してもらっている。	事業所内の訓練と法人の訓練にも参加して避難場所の確認や自然災害想定での訓練を実施している。地域の協力隊員の参加もある。今年度は自家発電機を設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ユニット職員が努力していると評価。それでも時々、よくない対応になることあり。	居室に入る時のノックや挨拶等、人生の先輩に対して失礼な言葉にならない様に職員同士注意し合って対応している。入浴時や排泄時の介助にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように支援しているし、なるべく希望に応じるよう努力もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者側のスケジュール優先にならざるを得ない部分もあるが、それぞれの希望を大切にしていることが多い。食事の時間・場所など、決まったこともあるが、それについても、柔軟に対応できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	判断可能な人には、衣類の選択など自分でしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、苦手な食材など好みを考慮し代替食の準備もしている。一部の入居者には、自分の仕事として片付け等を手伝ってもらっている。ただ、盛り付けなどに関わってもらう機会が少ない。	利用者の嗜好を聞きながら旬の食材を使い食べやすい形状で提供している。遠足の時等は普段食べられないものや好物を食べ外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食のチェックをし、次の機会で調整したりも出来ている。栄養のバランス、摂取量の確保も大切だとは思いますが、それまでの生活がどうだったのかに配慮したり、本人の希望をききながら盛り付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食はできていないが、夕食後は必ず支援している。それにより習慣化した方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の方も増えてきたが、排泄パターンはある程度把握している。立たれたり歩きだされたりするタイミングで声掛けし、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりのサインの把握に努め、介護度の高い利用者も出来る範囲でトイレに誘導しスッキリした気持ちを感じて貰う事が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬でのコントロールが多い。運動や水分摂取に努めている。家族にも協力してもらい、牛乳やヨーグルトを飲んでいただいている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制の都合で、午前中に入浴が多い。入浴時間を決めておられる方があり、希望に沿っている。拒否があるときは、時間をおいて声掛けし、気持ちよく入っていただけるようにしている。	基本的な入浴時間はあるが利用者の体調に合わせて柔軟に対応している。入浴を好まない利用者にはタイミングを見たり日にちをずらして支援し、ゆったりとした雰囲気を入浴が楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握し、休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、二人で確認し、服薬直前には復唱確認し、誤薬を防ぐ取り組みをしている。処方薬が変更になった時には、周知するようにしているが、副作用まで把握できている職員は少ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを活かした支援は行えている。草取りや食器洗い、調理の手伝い、共有スペースの掃除、洗濯物たたみ等。パズルが好きな方には、拡大コピーして見やすいようにして楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はできていないが、本人の希望で事業所周辺の散歩に出かけることはある。地域の行事や祭りに出かけている。家族と外出される方もある。	季節や気候に合わせて法人合同で出掛ける事もある。春の花見、秋の紅葉狩り、近くの神社にお参り等している。遠出が困難な利用者は周辺を散歩して外気や季節を感じられる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は少ない。自己管理できる方にはしていただき、受診時や買い物など自分で支払いをされる。事業所で管理している方にも、売店で買い物などは楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという希望には沿っている。電話で話されるときは、ゆっくり話していただける環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度や湿度管理には気を付けている。花を飾る程度で、あまり季節感はいれられていない。	椅子やソファが置いてあり自由にテレビを見たり会話ができる様になっている。高台の置の間には炬燵を出していつでも寛ぐ事が出来る様にしている。台所はオープンカウンターで調理の様子を見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で落ち着いて過ごしたい方や、気の合う人とお話したい方などおられ、それぞれに合った空間作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談しながら居室環境を整えている。家族からのプレゼントなどを飾っている。空調の温度設定なども本人と相談しながら行っている。	仏壇、テレビ、移動式のハンガーラック等を置き、家族の写真や毛糸の編み物の用意をする等安心して生活ができる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉が同じため、自分の居室が分かりにくい方がおられるので、入り口に目印や表札を付け、混乱なく過ごしてもらえるよう支援している。		